資料３

取り組みを踏まえた普及啓発活動の成果と課題

１．アンケートの実施概要

第５回茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルの際に、市民部会の取り組みとしてアンケート調査を実施しました。アンケートの実施概要は以下のとおりです。

調査名	第５回茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルアンケート
調査目的	・外出に関する実情の把握 ・市内での主な外出先（イベント、施設） ・スポーツを通じたコミュニケーションの有無 ・イベント等の効果的な周知方法
調査方法	本企画の参加者へのヒアリング及びアンケート用紙の配布
回答者数	349 名（障害あり　36 名、障害なし　270 名、障害の有無回答なし　43 名）
設問項目	1. ご自身について ①　年齢・性別・居住エリア ②　同伴者の有無・種別 ③　障害の有無・種別 ④　来場の際の交通手段 ⑤　来場の際に苦労したこと、困ったこと有無 ⑥　⑤の具体的な内容 ⑦　茅ヶ崎市内で開催されているイベント等で行きたい（よく行く）もの ⑧　茅ヶ崎市内の行きたい（よく行く）場所 ⑨　本企画での他の来場者とのコミュニケーションの有無 2. 企画について ①　本企画を知ったきっかけ ②　本企画で良かったもの ③　本企画への今後の参加意向 3. 自由記述

（参考）アンケート票

第5回茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルアンケート

本日は、ご来場いただき誠にありがとうございます。茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルにご参加いただき、以下の質問にお答えください（答えられる範囲で結構です。）。
本アンケートは、本企画や茅ヶ崎市の取り組みに役立てることを目的に行うものであり、第三者に公開するものではございません。

1．ご自身について

① 年齢、性別及びお住まい

年齢	歳	性別	男性 ・ 女性	お住まい	南東部 ・ 南西部 ・ 西部 ・ 東部 ・ 北部 ・ 茅ヶ崎市外

② どなたとお越しですか？

お1人 ・ ご家族 ・ ご友人 ・ 介助者 ・ その他（　　）

③ 障害をお持ちですか？（該当するもの全てに○）

視覚 ・ 聴覚、言語機能 ・ 肢体 ・ 内部 ・ 知的 ・ 精神 ・ 発達 ・ 難病 ・ 無し ・ その他（　　）

④ お住いから会場までどういった手段で来られましたか？（該当する主なものに○）

徒歩 ・ 自転車 ・ 路線ﾊﾞｽ ・ ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ ・ ﾀｸｼｰ ・ 電車 ・ 車（自分で運転･送迎） ・ その他（　　）

⑤ お住いから会場に来る間に、苦労したことや困ったことはありましたか？

あった ・ なかった

⑥ ⑤の回答が「あった」方は、どのようなことですか？

（記入）

⑦ 茅ヶ崎市内で開催されているイベント等で、行きたい（よく行く）ものはありますか？（該当するもの全てに○）

湘南祭･アロハマーケット･大岡越前祭･浜降祭･花火大会･市民ふれあい祭り･その他（　　）

⑧ 茅ヶ崎市内において、行きたい（よく行く）場所はどこですか？

（記入）

⑨ 本日、他の来場者とのコミュニケーションはありましたか？

非常にあった ・ 少しあった ・ ない

2．企画について

① 本企画をどこで知りましたか？（該当する主なものに○）

市HP ・ チラシ ・ ポスター ・ 口コミ ・ Twitter等SNS ・ 広報紙 ・ タウンニュース ・ その他（

② ①で回答したものを見た、聞いた場所はどこですか？

（記入）

③ 本企画において、良かったものはどれですか？（該当するもの全てに○）

卓球･ｻｳﾝﾄﾞﾃｰﾌﾞﾙﾃﾆｽ･ﾌｧﾐﾘｰﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ･ｽﾎﾟｰﾂ吹矢･ﾎﾞｯﾁｬ･ﾀﾞｰﾂ･わなげ･ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ･ﾊﾟﾈﾙ展示等

④ 今後、本企画が開催された場合、また来たいと思いますか？

是非参加したい ・ 時間があれば参加したい ・ もう参加しない ・ わからない

裏面に続きます ⇒

※裏面は自由記述のみのため掲載していません。

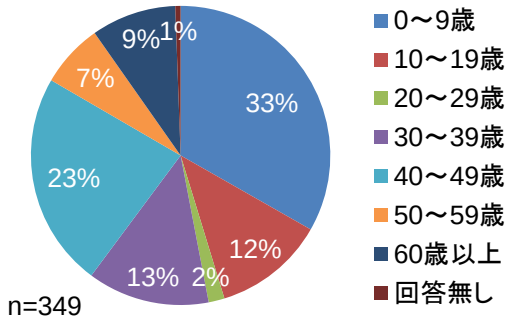
2．アンケート結果の概要

実施したアンケート調査の結果を以下に示します。

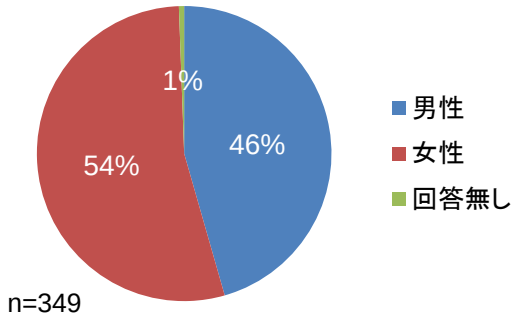
①　回答者属性

- 子どもとその同伴者の保護者での来場が多い。
- 茅ヶ崎市西部の参加者が多い。
- **<u>当事者の来場は全体の約１割</u>**である 36 名。
- 当事者の中でも半数が肢体不自由児者で、次いで知的障害者、視覚障害者の方が参加。

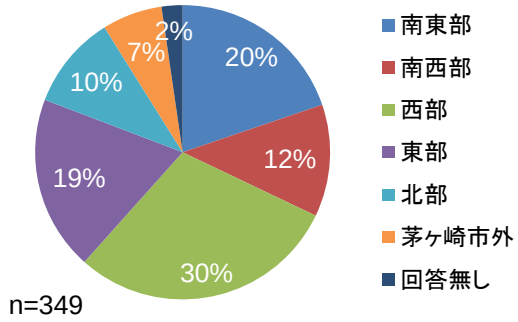
■年齢



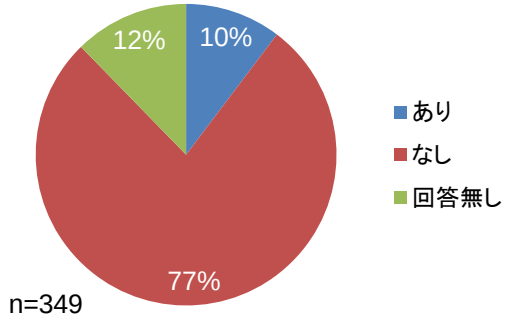
■性別



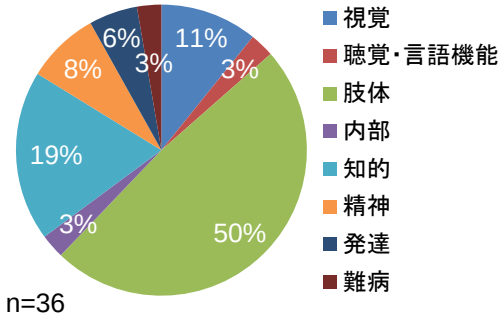
■お住まい



■障害の有無



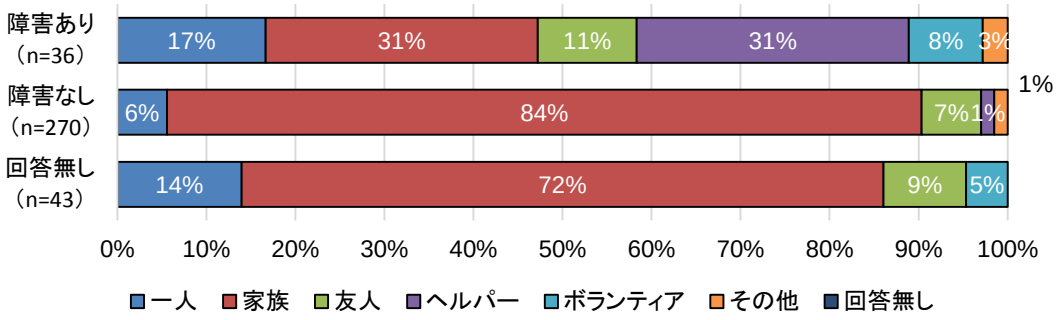
■障害の種類



②　障害の有無で見た移動手段・外出意欲・企画内容等の回答

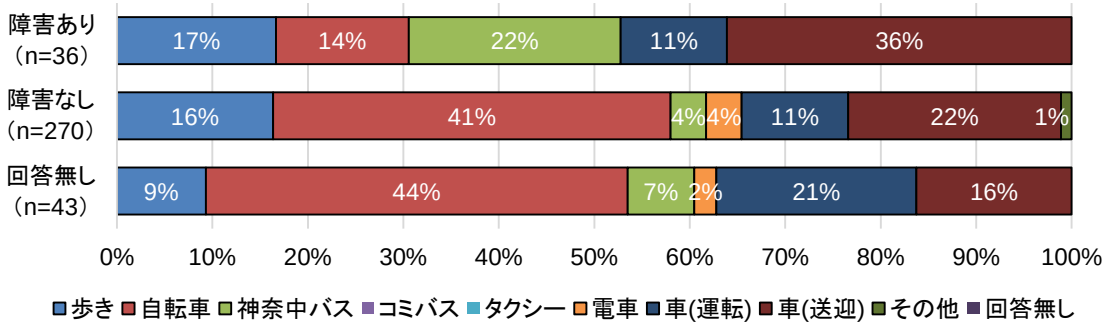
■同伴者

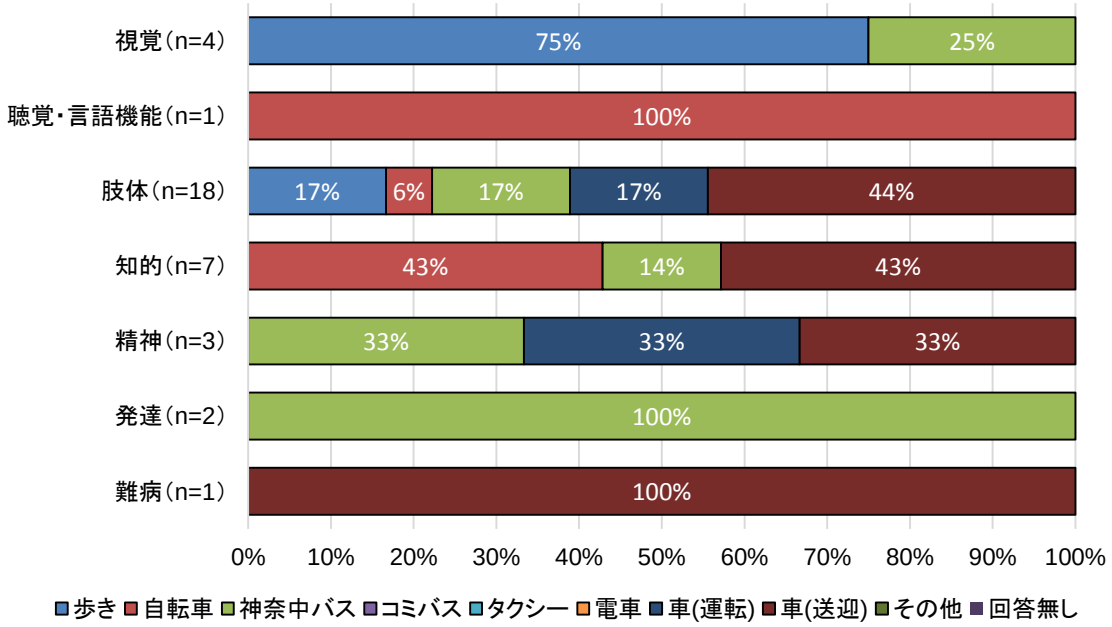
- 当事者は、家族やヘルパーとの来場が多く、その他の人は親子による来場が多い。



■来場手段

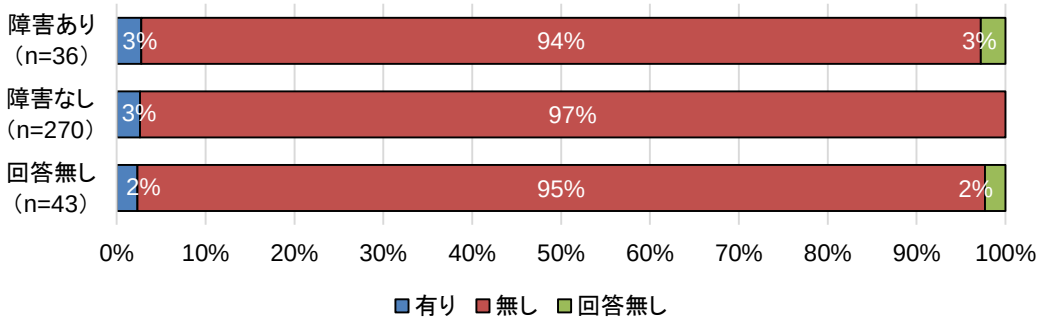
- **<u>当事者は路線バス</u>**や車（送迎）の利用が多い。障害のない人は自転車の利用が多い。**<u>コミュニティバスやタクシーの利用者はいない</u>**。
- 視覚当事者は徒歩での来場が多い。肢体不自由者は車（送迎）の利用が多い。知的当事者は自転車や車（送迎）の利用が多い。





■来場時の苦労の有無

➢ 来場の際に**苦労を感じている人は少ない**。



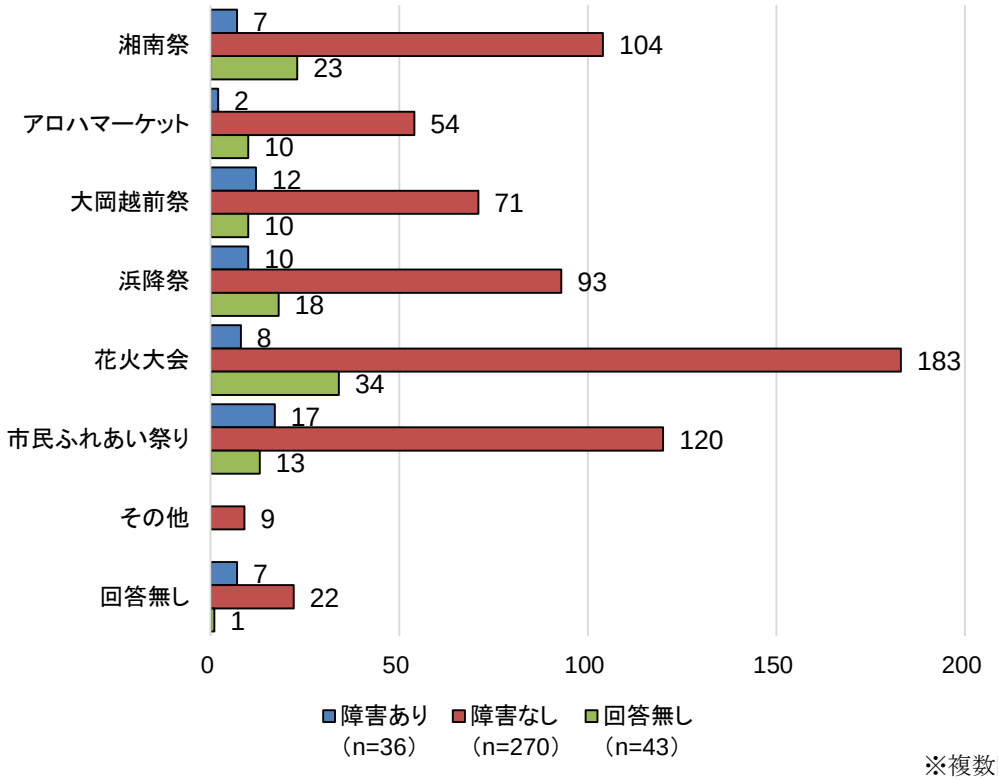
---自由記述回答----------

- ガイドと一緒のため、困ったことは無かった。（視覚障害）
- 今日は無かったが、日によって膝の痛みで歩行が困難である。（肢体障害）
- 風が強かった。直接来られるバスが無いので不便である。（肢体障害）
- 歩道が狭く自転車で来るのが大変だった。（障害なし）
- 坂道が急である。（障害なし）
- イオンからエイビィの歩道が狭い。（障害なし）

■イベントで行きたい（よく行く）もの

➢ **市民ふれあい祭り**や大岡越前祭は共通して関心のある人が多い。

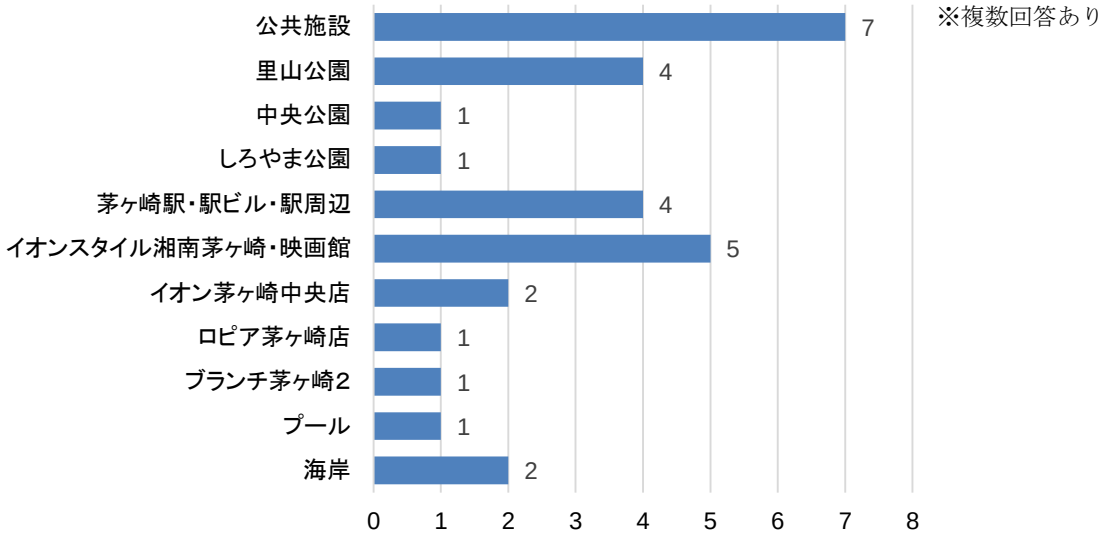
➢ 障害のない人が花火大会への関心が高いのに対し、**当事者は花火大会への関心や行く機会があまりない**。



※複数回答あり

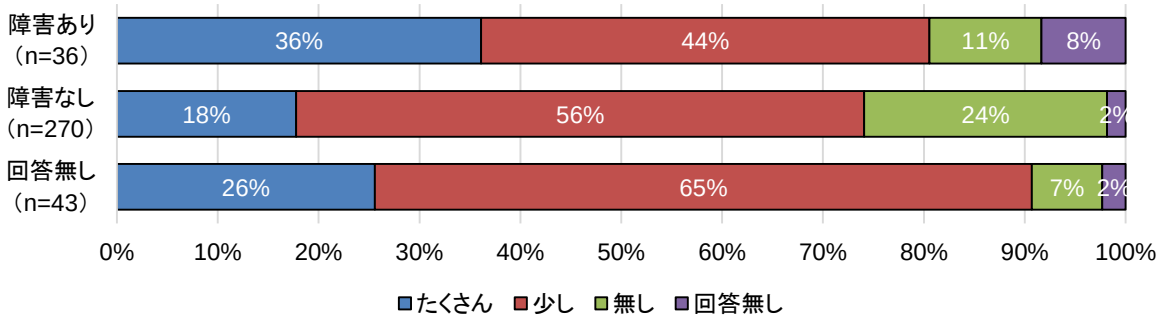
■行きたい（よく行く）場所　（当事者の回答のみ）

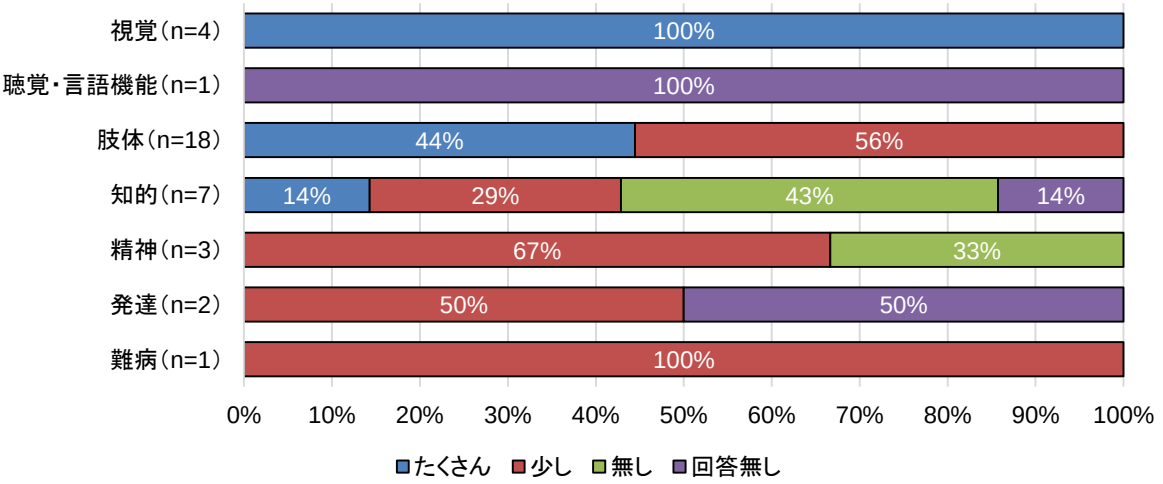
- 公共施設や鉄道駅周辺、大規模な公園、商業施設の利用が多い。



■ユニバーサルスポーツフェスティバルでの他人（来場者）との会話

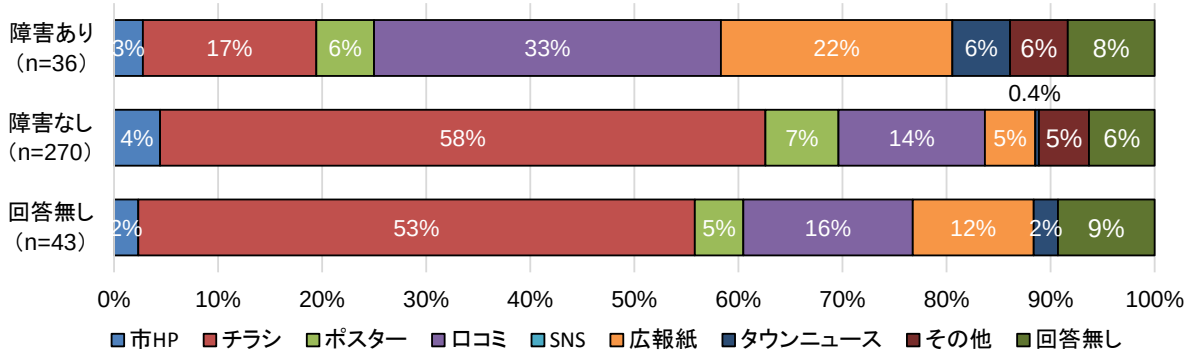
- 当事者は**<u>８割が同行者以外とのコミュニケーション</u>**をとっている。
- **<u>視覚障害、肢体不自由の参加者は全員が他人と会話した</u>**と回答しているが、**<u>知的・精神・発達障害では、約半数</u>**にとどまっている。
- 障害のない人は約７割が同行者以外とのコミュニケーションをとっている。





■イベントを知った方法

- 当事者の主要な周知媒体として、**<u>口コミと広報誌</u>**が全体の半数を占めている。
- 障害のない人は小学校等に配布したチラシが６割程度である。
- 全体として **<u>SNS で知った参加者はいない</u>**。

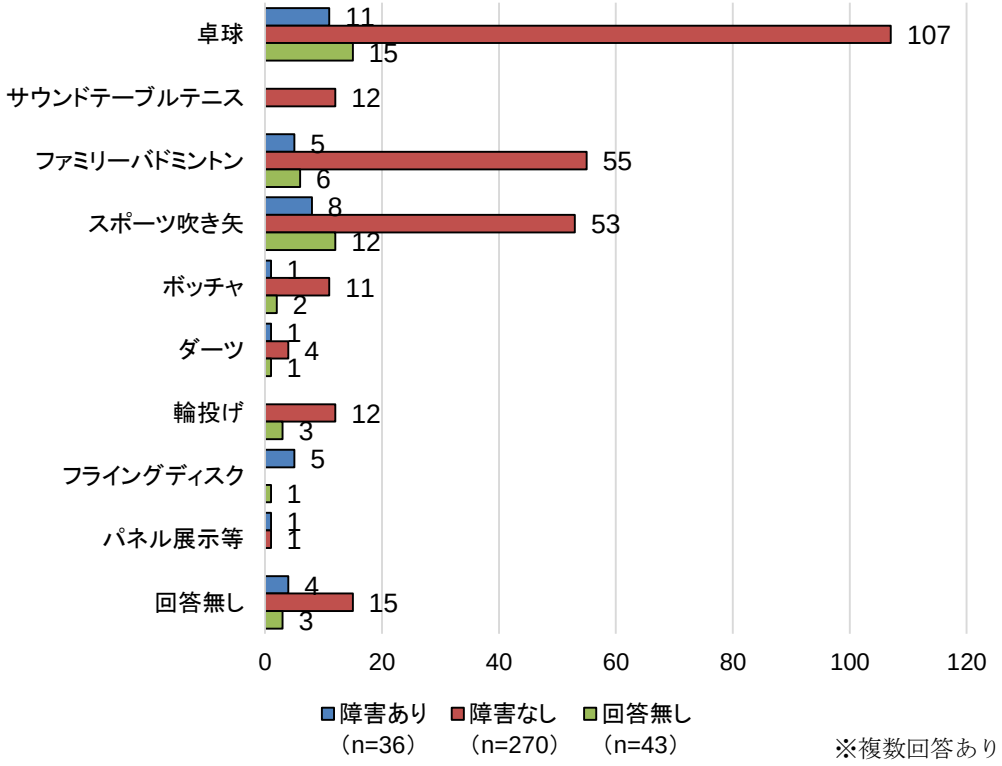


---自由記述回答（当事者の回答のみ）----------

- 市役所・公民館・プール・体育館
- 福祉会館・社協
- 小学校・職場
- グループホーム
- 会合の場
- ニュースポーツ体験会で
- 訪問介護の方から

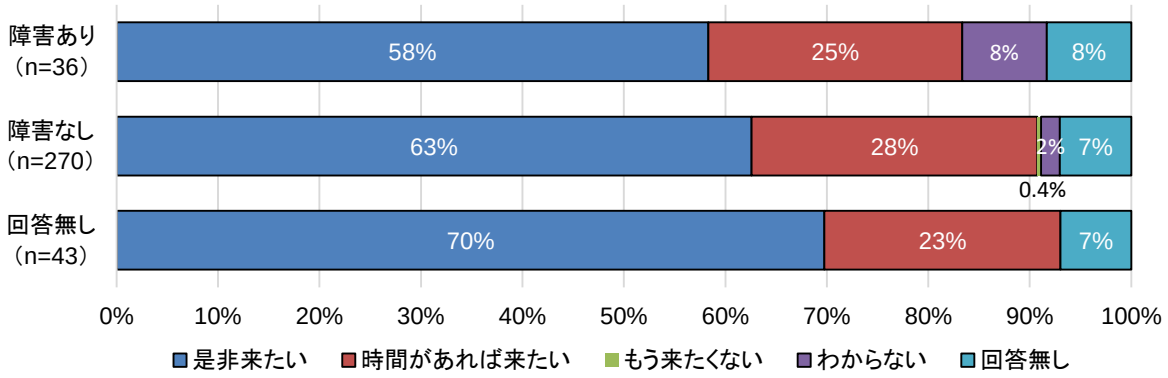
■良かったもの

- 体験競技として人気のあったものは、障害の有無に関わらず、卓球、ファミリーバドミントン、スポーツ吹き矢の人気が高い。
- サウンドテーブルテニスは参加者が少ないが、障害のない人からの評価は高い。



■再訪意欲

- 全体として**<u>８割以上の人がまた参加したい</u>**という意向がある。



③　自由記述

---自由記述回答----------

- 係の方が皆親切で、褒めてくれるのでとても嬉しかった。フライングディスクをまたやってみたい。
- バスケみたいなのをやってみたい。
- 多くの人が来て楽しかった。
- 吹き矢が奥にあり、主人が反対していたが参加したら楽しかったので、来年も来たい。
- 楽しかったので、またお願いします。
- 普段ほとんど運動しないので、気軽に参加でき子どもと楽しめてよかった。
- 久しぶりに遊んでとても楽しかった。皆さんとても優しかったので良かった。
- 久しぶりのスポーツだったのですごく楽しかった。機会があれば参加したいと思いました。時間が無く 2 種目しか参加できなかったが、時間の許す限り楽しめる場所だと思った。ありがとうございました。
- 普段話さないような人と話せて、体を動かせて気分転換にもなってすごく良かった。近いうちにやってくれたら嬉しい。
- 一度にたくさんのスポーツを体験できたのが良かった。障害者もできるので良いと思った。
- STT は健常者障害者が一緒に楽しめるので良い。
- 想像以上に参加者が楽しんでいたのが印象的。
- 実際に参加しないとわからないことを感じられた。
- 運動が苦手でも誰でも楽しめる内容が良かった。
- 誤嚥性肺炎のリハビリとしてスポーツ吹き矢に参加した。もっと簡単に用具を手に入れられたらと思う。
- 短い時間だがいろいろなスポーツを楽しめました。初めてのものばかりで新鮮でした。

３．普及活動の成果と課題のまとめ

成果

- 小学校の児童全員への**チラシの配布によって大幅に参加者が増加**し、ユニバーサルスポーツの認知が高まるとともに、当事者と子ども、その保護者の交流の機会が広がった。
- 特定の人を対象としたイベントでないことから、**日常に当事者がいるという気付きのきっかけを醸成**することができた。
- サウンドテーブルテニスでは、実際にアイマスクをして視覚障害者を相手に競技を行っており、聴覚や触覚を頼りに判断する経験を通じ、**視覚障害への理解**が深まる機会となったと考えられる。
- 茅ヶ崎市視覚障害者福祉協会の協力（サウンドテーブルテニス、点字体験、パネル展）によって、**協会の活動等の紹介の場**となった。
- パネル展やバリアフリー基本構想概要版の配布等によって、**心のバリアフリーや市の取り組みの周知**を図った。
- アンケート調査により、**参加者同士の交流の状況やイベントへの高い評価**を確認できた。

課題

- 他の来場者との交流が一定程度あったことが確認できたものの、**当事者同士や当事者と子どもたちが実際にどの程度交流できたか**は不明である。多様な人が一緒に時間を過ごし、互いの理解につながる機会をどのように作るかは引き続き検討する必要がある。
- 現時点では、twitter などは「多様な発信」の一環として実施しているが、実際には SNS からイベント情報を得て参加した人はいなかった。**当事者の SNS の利用実態も不明**であり、WEB を使った効果的な発信方法を検討する必要がある。
- 普段出かけない当事者が出かける機会とはなっていない可能性がある。当事者は口コミをきっかけにイベントに来訪していることが多く、「福祉団体」「グループホーム」「社協」など、**支援者・介助者とのかかわりの中から情報を得る**機会が多いため、**支援者への発信と支援者からの働きかけ**が重要と考えられる。これをふまえ、当事者参加をより働きかけるにはどうしたらよいか、引き続き検討する必要がある。
- **コミュニティバスについて、当事者を含め全ての参加者に利用されていない**状況であるため、ユニバーサルデザインであることの周知と合せて、より使いやすい公共交通へと成長させる必要がある。